

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101793		
法人名	医療法人 一洋会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	徳島県徳島市下町本丁61番地の1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101793&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのできることや興味のあることを見い出して援助している。地域との交流を密にするために、神社の清掃ボランティア、地元の交番・支所への生花ボランティアを行っている。近隣施設との交流会や隣接する保育園の子供たちとのふれ合い等を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、クリニックやケアハウス、入所施設、保育所等がある敷地の一角に位置している。四季を眺望できる高台に建てられており、木々の緑や季節の花や小鳥のさえずりを愛でながら散歩を楽しむことができる環境にある。隣接する施設との交流に加えて、氏神さんの草抜き、支所や駐在所への生け花ボランティア、来訪者の受け入れなど、地域との交流も大切にしている。職員は、人生の先輩である利用者一人ひとりが穏やかに過ごせるよう、開設当初から関わってきた職員を中心として、管理者とともによりよいケアを目指して取り組んでいる。利用者は、自由な環境で伸び伸びと生活されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に理念を掲げ、職員が常に意識を持って共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえて、職員間で作った事業所の理念を常に意識し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属して地元の祭りに参加させていたたり、地域の子供会を招いてクリスマス会を行ったりしている。また、交番・支所へ生花を届けに出かけたり、神社の草抜き・清掃に参加させていたたりしている。	町内会に加入し、行事に参加したり、子供会とのクリスマス会や支所や駐在所への生け花ボランティア、来訪者の受け入れなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に対する働きかけは具体化していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的な活動や地域との交流について、状況を報告し参加者と意見交換を行っている。また、参加者の意見・要望・質問等をサービスの質の向上に活かしている。	事業所の行事予定や報告を行い、地域の情報をもったり、外部評価結果に対する意見交換等を行ったりしている。運営に関する家族や利用者の要望を聞く機会として、年に2回は家族会も兼ねて家族間の交流の支援もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業が円滑に行われるよう、不明な点は市町村担当者に電話や訪問などをして問い合わせ、連携を図っている。	介護報酬やスプリンクラー設置について、また提出書類の確認など、市の担当者とは電話や窓口で相談したり話し合ったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声かけに加えて、利用者一人ひとりの行動や気分の状態を把握し、安全面に配慮して鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。	職員は事業所の行動指針を理解し、利用者一人ひとりの行動や仕草を察知して関わることで、玄関の鍵はかけずに自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者にも目を配り、身体的、精神的または行動に変化がないかを観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が必要な方に提供できるよう研修会や勉強会に参加し、知識を習得している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は「重要事項説明書」と「契約書」を読んで説明し、不明な点は質問していただいている。また、ホームの方針や取り組み、ケアや医療連携体制などについても説明し、安心してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見をいただきやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議・家族会への参加、意見箱の利用などで意見をいただけるようにしている。	意見や要望を聞く機会として、年に2回は家族会を開催している。また、玄関と各ユニットに意見箱を設置して、面会時にも話しやすい雰囲気づくりに努め、出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体のミーティングで職員の意見や要望を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを図ったり、時々食事会等を行ったりして意見交換を行うようにしている。	管理者は、月に1回は職員の意見や要望を聞く会議を開き、職員間で話し合って改善できることはその場で検討している。案件によっては理事長へ相談し、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスが溜まらないよう、休憩時間に配慮している。また、勤務実績に基づき、研修や資格取得の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修会への参加や資格取得の支援をしたり、関連施設で行う勉強会に参加したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連している事業所との合同の行事・勉強会に参加し、交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望があれば、本人や家族にホームの見学を勧めている。事前面談を行って、生活状態を把握するよう努め本人や家族の求めていること、不安を理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や心配事を傾聴し、理解する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人と家族の思いや状況を確認して、必要としているサービスに繋がるよう援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、学ぶことや教えていただくことが多い。職員とともに支え合い、穏やかに生活できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、家族とともに本人を支えていく関係を築いている。また、家族との情報交換を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続できるよう配慮している。また入居前に暮らしていた場所等へドライブに出かけたり散歩をしたりしている。	入居前に住んでいた場所や行き来していた友達の家を訪ねたり、馴染みの美容室に出かけたり、神父さん等の訪問があったりと、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に生活する仲間と支え合い、関係がうまくいくように支援し、孤立しないように配慮している。会話の様子を伺いながら職員が間に入り、互いの話を理解できるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居・退居された後は、近況をお聞きしたり訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのできることや要望、言葉や表情などからその真意を推し測り、個別に対応している。個別の「生きがいプラン」づくりを実施している。	随時、本人や家族、関係者から暮らし方の希望や意向を把握するように努めるとともに、日頃の行動や表情・会話から本人の思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に加えて、入居後も本人や家族、関係者から情報をいただき、これまでの暮らしぶりを把握してホームでの生活に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを理解し、少しの動作や行動からその人の全体像を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞いて計画に反映させている。また月に1回、介護職員部会・ケア会議を開き全職員で意見交換やモニタリングを行ない、具体的な個別計画を作成している。	計画作成担当者は、本人や家族、必要に応じて主治医や看護師等と話し合い、ケア会議で意見交換し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。モニタリングも、ケア会議で職員と一緒に次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事・水分摂取量、排泄状況やバイタル等の身体状況及び日々の暮らしの様子、本人のエピソード等を記録している。記録は全職員が確認し把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、予定日以外の外出等にも臨機応変に対応している。また、通院等が必要な場合には、状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、駐在所や民生委員、婦人会等の方との意見交換を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。本人や家族等の希望に応じて納得をいただいた訪問診療・医療連携体制を取り、安心してもらっている。	すべての利用者が協力医療機関の受診を希望し月2回の訪問診療を受けている。協力医療機関の専門科以外は、本人が希望する病院の受診を家族と相談しながら、送迎や付きそい、薬の受け取り等の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師や医療連携体制の訪問看護師と、健康管理や医療面に関して気軽に相談ができる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供して、家族とともに情報交換をしながら回復状況を確認したうえで退院支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて、安心して終末期を迎えることができるよう、関連医療機関や施設との連携を図って対応している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に指針にそって説明している。入居後は段階ごとに状態説明を行い、関係者の意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。医療連携により重度化した場合でも対応ができる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてのマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て関連施設と合同消防避難訓練を行ったり、月に1回はホーム内で避難訓練を行なったりしている。	年に1回は、法人全体で消防署員の指導のもと、地域の分団員も10名程度参加して避難訓練を行っている。また夜間想定も含めた事業所独自の訓練を毎月、利用者とともに実施している。食料や飲料水の備蓄は、法人全体で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、本人の気持ちなどを考えながら対応している。また、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、全職員で関わり方を確認しながら取り組んでいる。	排泄や入浴時には、特に誇りやプライバシーを損ねないよう職員間で連携しながら、動きや言葉かけに注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、表情を読み取ったり行動を見たりして、本人が決められる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、その時の本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望にそって、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。希望に合わせてカットや毛染めをしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、盛付け、片付け等、利用者一人ひとりの力を活かしながらとにも行っている。	対面式の調理場で、利用者と話をしながら盛り付けや食器洗いなどを行っている。職員は介助や見守りのため、時間はずれるが利用者と同じ食事を会話を楽しみながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、一日の摂取量を把握している。家族や職員間で情報や気づき、アイデアなどを出し合い、本人の食生活を様々な面から支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っている。自分でできる方には声かけや見守りを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方には排泄パターンを調べて羞恥心や自尊心に配慮して、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	チェック表で排泄パターンを知るとともに、本人固有の動作から便意や尿意を感じ取り、職員が連携しながらトイレ誘導し、気持ちよい排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し、便秘の方には十分な水分補給や腸の動きを良くするための体操や散歩に誘うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方には、声かけや誘導を工夫している。個々のペースに合わせた入浴支援を行なっている。	シャワーや足浴等を組み合わせながら、最低週に3回は、「あー気持ちよかった」「さっぱりした」等の言葉が聞けるよう、個々にそった声かけをしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を観察し、生活リズムを整えるように努めている。また、体調の変化や希望等を考慮しながら、夜間に気持ちよく睡眠が取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬時には名前を声に出して確認し、直接介助してきちんと服用できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように役割を担ってもらい、感謝とねぎらいの言葉かけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や気分に応じて日常的に散歩やドライブを楽しんでいる。隣接する保育園の園児と、庭のベンチに座って外気浴に触れる機会をつくっている。	天気が良ければ近隣まで手をつないで出かけて自然に触れたり、車椅子で出かけたりしている。また梅見やビッグひな祭りを見にドライブしたり、個展を開いている喫茶店へコーヒーを飲みに行ったりするなど、興味ある楽しみな外出も随時実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小遣いを持っている方もいる。売店に行き買い物を楽しみ、自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人などに電話しやすい雰囲気を作り、申し出に応じて出かけている。近況報告なども、外部との通信のきっかけとしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者の言動に留意し、テレビの音量や採光に配慮している。生活感や季節感のあるものを活用しながら、生活の場を整えている。	居間と台所はワンフロアで広々とした空間になっており、居室から出ればそれぞれの行動が見渡せるとともに、生活しているという安心感がある。壁には利用者の作品が飾られ明るい雰囲気になっている。1階の窓からは、隣接する保育所の園児の生活が見えて、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースや仲の良い利用者同士がくつろげる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の寝具やタンス、写真や好きな小物を居室に飾り、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。	寝台とクローゼット、洗面台が備えられている。利用者は寝具類や衣装ケース、テレビなど思い思いの馴染みの品を持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるよう、担当職員も関わりながら工夫して整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備をしている。状態が変わって新たな混乱が生じた場合はそのつど職員が話し合い、それぞれに合わせた工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に理念を掲げ、職員が常に意識を持って共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属して地元の祭りに参加させていただいたり、地域の子供会を招いてクリスマス会を行ったりしている。また、交番・支所へ生花を届けに出かけたり、神社の草抜き・清掃に参加させていただいたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に対する働きかけは具体化していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的な活動や地域との交流について、状況を報告し参加者と意見交換を行っている。また、参加者の意見・要望・質問等をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業が円滑に行われるよう、不明な点は市町村担当者に電話や訪問などをして問い合わせ、連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声かけに加えて、利用者一人ひとりの行動や気分の状態を把握し、安全面に配慮して鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者にも目を配り、身体的、精神的または行動に変化がないかを観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が必要な方に提供できるよう研修会や勉強会に参加し、知識を習得している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は「重要事項説明書」と「契約書」を読んで説明し、不明な点は質問していただいている。また、ホームの方針や取り組み、ケアや医療連携体制などについても説明し、安心してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見をいただきやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議・家族会への参加、意見箱の利用などで意見をいただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体のミーティングで職員の意見や要望を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを図ったり、時々食事会等を行ったりして意見交換を行うようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスが溜まらないよう、休憩時間に配慮している。また、勤務実績に基づき、研修や資格取得の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修会への参加や資格取得の支援をしたり、関連施設で行う勉強会に参加したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連している事業所との合同の行事・勉強会に参加し、交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望があれば、本人や家族にホームの見学を勧めている。事前面談を行って、生活状態を把握するよう努め本人や家族の求めていること、不安を理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や心配事を傾聴し、理解する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人と家族の思いや状況を確認して、必要としているサービスに繋がるよう援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、学ぶことや教えていただくことが多い。職員とともに支え合い、穏やかに生活できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、家族とともに本人を支えていく関係を築いている。また、家族との情報交換を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続できるよう配慮している。また入居前に暮らしていた場所等へドライブに出かけたり散歩をしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や力、個性を活かせるように支援し、孤立しないように配慮している。また、心身の状態や気分、感情で関係が変化することもあるため、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居・退居された後は、近況を伺ったり訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのできることや要望、言葉や表情などからその真意を推し測り、個別に対応している。個別の「生きがいプラン」づくりを実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に加えて、入居後も本人や家族、関係者から情報をいただき、これまでの暮らしぶりを把握してホームでの生活に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを理解し、少しの動作や行動からその人の全体像を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞いて計画に反映させている。また月に1回、介護職員部会・ケア会議を開き全職員で意見交換やモニタリングを行ない、具体的な個別計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事・水分摂取量、排泄状況やバイタル等の身体状況及び日々の暮らしの様子、本人のエピソード等を記録している。記録は全職員が確認し把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、予定日以外の外出等にも臨機応変に対応している。また、通院等が必要な場合には、状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、駐在所や民生委員、婦人会等の方との意見交換を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。本人や家族等の希望に応じて納得をいただいた訪問診療・医療連携体制を取り、安心してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師や医療連携体制の訪問看護師と、健康管理や医療面に関して気軽に相談ができる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供して、家族とともに情報交換をしながら回復状況を確認したうえで退院支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて、安心して終末期を迎えることができるよう、関連医療機関や施設との連携を図って対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてのマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て関連施設と合同消防避難訓練を行ったり、月に1回はホーム内で避難訓練を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、本人の気持ちなどを考えながら対応している。また、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように、全職員で関わり方を確認しながら取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、表情を読み取ったり行動を見たりして、本人が決められる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、その時の本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望にそって、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。希望に合わせてカットや毛染め、マニキュアをしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、盛付け、片付け等、利用者一人ひとりの力を活かしながらとに行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、一日の摂取量を把握している。家族や職員間で情報や気づき、アイデアなどを出し合い、本人の食生活を様々な面から支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて口腔ケアを行なっている。自分でできる方には声かけや見守りを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方には排泄パターンを調べて羞恥心や自尊心に配慮して、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し、便秘の方には乳酸飲料や十分な水分を補給していただいている。腸の動きを良くするため、体操・散歩などに誘っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり浸かりたい方には順番を後にしている。羞恥心にも配慮し、異性職員の介護を拒まれる場合は、利用者の心情を察して対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を観察し、生活リズムを整えるように努めている。また、体調の変化や希望等を考慮しながら、夜間に気持ちよく睡眠が取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬時には名前を声に出して確認し、直接介助してきちんと服用できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように役割を担ってもらい、感謝とねぎらいの言葉かけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や気分に応じて日常的に散歩やドライブを楽しんでいる。隣接する保育園の園児と、庭のベンチに座って外気浴に触れる機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小遣いを持っている方もいる。売店に行って買い物を楽しみ、自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった場合は、電話を取り次ぎ外部へかけている。子機を利用することでプライバシーに配慮し、家族や友人に電話をかけやすい環境をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者の言動に留意し、テレビの音量や採光に配慮している。生活感や季節感のあるものを活用しながら、生活の場を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色が良く見える場所にイスやテーブルを置き、一人で過ごせる場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の寝具やタンス、写真や好きな小物を居室に飾り、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備をしている。状態が変わって新たな混乱が生じた場合はそのつど職員が話し合い、それぞれに合わせた工夫をしている。		